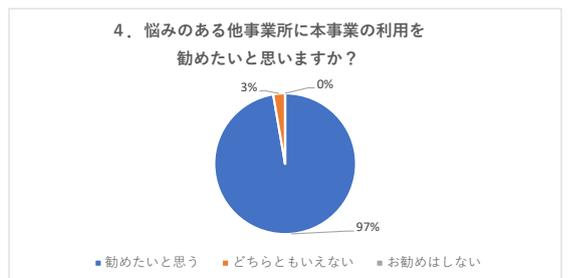
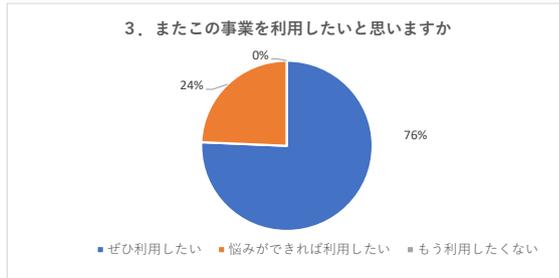
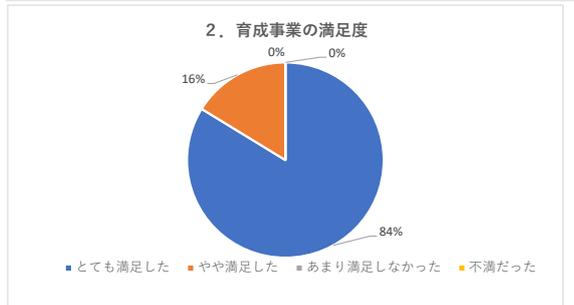
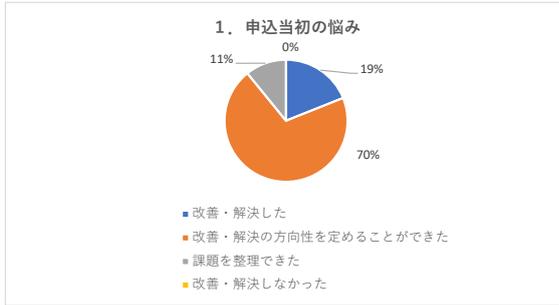
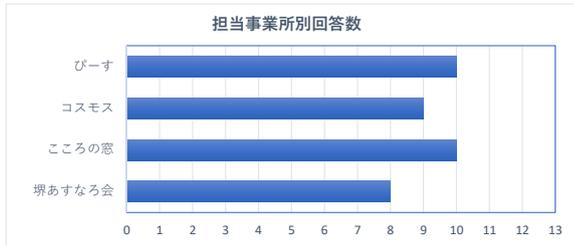
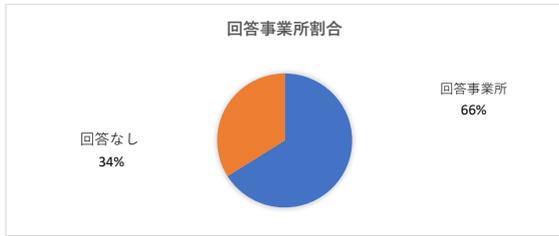
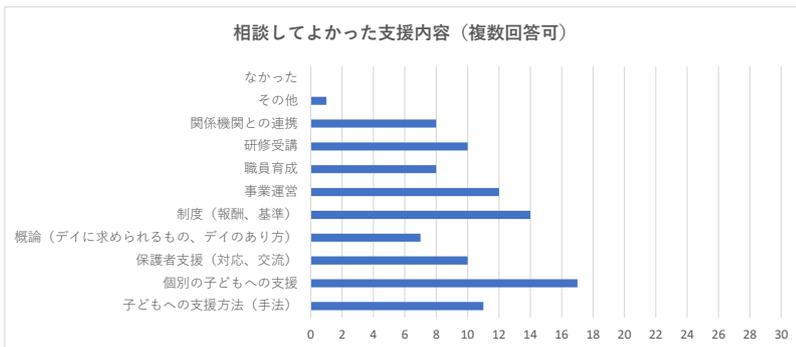


令和6年度 障害児通所支援事業者育成事業アンケートとりまとめ（今年度利用した利用者）



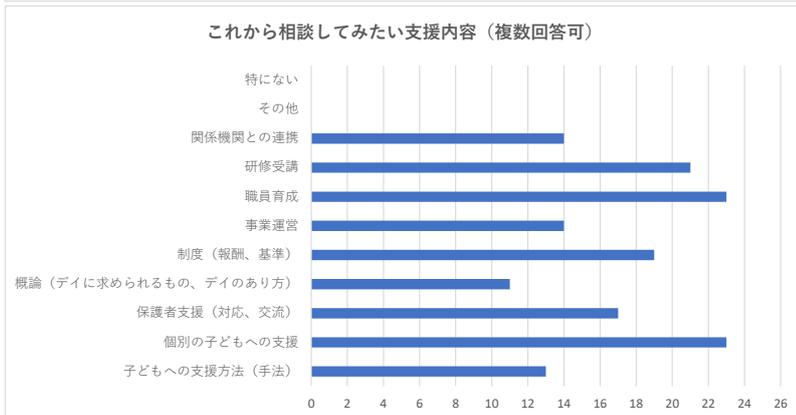
※全回答数は37事業所。1事業所内で3个回答があったものは、集約して1件としている。

1. 申込当初の悩みが解決したかという項目について、解決しなかったと答えた事業所は3年連続で0であった。
2. 満足度については、すべての事業所がとても満足、やや満足したという回答であった。（各満足度の理由については別紙のとおり）
3. またこの事業を利用したいと思いますかという項目について、76%が「ぜひ利用したい」、24%が「悩みができれば利用したい」、「もう利用したくない」と答えた事業所は0%であった。
4. 悩みのある他事業所にも利用を勧めたいかという項目に対して、97%が「勧めたいと思う」と回答した。「どちらとも言えない」という事業所は1事業所のみであるが、満足度としては「とても満足」と回答のある事業所だった。



【その他の内容】
・個別支援計画作成のサイクルにおける職員間の連携や記録について

【相談してよかった支援内容】
・相談してよかった内容として、個別の子どもへの支援が最も多かった。
・次に多いのは、制度に関するものであり、昨年度の相談してみたい内容で最も多かった項目であるが、相談をして満足感を感じた事業所が多いと考える。



【これから相談してみたい支援内容】
・昨年度は、制度について相談してみたいという事業所が最も多かったが、今年度の実施にあたり、一定の助言が得られた影響か、数は下がっている。
・今年度のアンケートでは、昨年度2番目に多かった「個別の子どもに対する支援」、「職員育成」が最も多い状況となった。
・令和4年度は子どもへの支援方法（手法）が一番多かったが、令和5年、令和6年は個別ケースに対する支援のニーズが高まってきている。
相談してよかった内容でも「個別のこどもの支援」が多いため、1年度と言わず、引き続き個別のこどもへの支援助言がほしいと思っている事業所が多いということが分かる。